

2025 年 3 月 13 日

報道機関 各位

(名古屋教育記者会、岐阜県政記者クラブ、文部科学記者会)

航空機製造業界全体の持続可能性向上へ 生産技術に関する研究開発コンソーシアムを設立

岐阜大学と名古屋大学を運営する東海国立大学機構とザ ボーイング カンパニー、三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社 SUBARU は、航空機生産技術に関する研究開発コンソーシアムの設立に合意し、2025 年3月1日付で正式に発足しました。

コンソーシアムの名称は「持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム」(Consortium for Sustainable Aircraft Production「以下:CSAP^{シーサップ}」)です。航空機製造業界が直面する共通の課題解決のために協力して研究開発を行い、業界全体の持続可能性を向上させることを目的としています。

この度、記者会見を下記のとおり開催しますので、取材のほどよろしくお願いします。

○記者会見について

日 時: 2025年 3 月 27 日(木) 16:00-17:00

場 所: 岐阜大学 航空宇宙生産技術開発センター

出席者: ボーイング ジャパン(株)

三菱重工業(株)

川崎重工業(株)

(株)SUBARU

各社代表

東海国立大学機構 機構長 松尾 清一

東海国立大学機構 岐阜大学 学長 吉田 和弘

○「持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム」(CSAP)概要

CSAP は、労働人口の減少にともなう人手不足への対応と、省エネ(脱炭素)につながる生産リードタイム短縮を当面の共通課題として掲げています。

これらに最も有効な解決策は自動化(省力化)の推進ですが、航空機製造は大型かつ複雑で、少量生産であるため、流れ作業的な製造ライン生産には向いておらず、特に検査や組立工程はもともと自動化しにくい生産形態です。加えて、極めて厳しい品質要求、精度要求、および再現性保証要求があります。このため、従来技術だけで自動化するのは容易ではなく研究開発によるブレークスルーが必要です。

CSAP は大学が持つ AI やロボット研究シーズを活用し、これらのブレークスルーをも

Press Release

たらず研究開発を共通課題解決のために実施します。いくつかの研究開発は先行して既に始まっています。

一例として、マルチモーダル AI 外観検査システムの研究を進めています。同研究では、単に傷があるかないかだけでなく、あたかも熟練検査員のように品質要求のどの部分にどのように違反しているかを答えられるシステムの開発を目指しています。

同研究は、岐阜大学と名古屋大学が連携して活動する航空宇宙生産技術開発センター (IPTeCA) と各社の共同で、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の 2024 年度先導研究「持続可能な航空機生産に関する研究開発」に採択されています。

【会場位置図】 岐阜大学正門からの案内図



<記者の皆様へ>

- 車でお越しの方は守衛室にてお手続きいただき、駐車場管理ゲートを通行してください。
- 上記「会場位置図」で示した「駐車場C」をご利用ください。
- 公共交通機関でお越しの方は、岐阜バス「岐阜大学」にて下車ください。
- 「駐車場」・「バス停」から会見会場までは、徒歩8分程度です。

航空宇宙生産技術開発センター (IPTeCA) は、東海国立大学機構が実施する連携拠点支援事業の支援を得ながら、T-PRACTISS (東海地域の大学・産業界・地域発展の好循環モデル) の実現に向けた取り組みを進めています。特に、内閣府や岐阜県、地元産業界との産学官金連携により、大学生や就業者を対象とした航空宇宙産業の「生産技術」に関する人材育成と研究開発を推進しています。



東海国立大学機構は、岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人です。
国際的な競争力向上と地域創生への貢献を両輪とした発展を目指します。
東海国立大学機構 HP <https://www.thers.ac.jp/>



問い合わせ先

東海国立大学機構 岐阜大学 航空宇宙生産技術開発センター
担当: 西脇・白木
TEL: 058-293-3714 FAX: 058-293-3712
E-mail: ipteca@t.gifu-u.ac.jp